

貴団体名		湖南省障がい児者団体連絡協議会 湖南省難病患者会	甲賀圏域で障がいの重い人達の暮らしの場を作る会 「ゆずり葉」
1. 貴団体の概要	主な関係障がい種類	身体	重度知的
	構成員数	1人	18人
	構成員の平均年齢	69歳	59歳
	活動概要	まだ活動実績はないが、今後は難病患者の方のお話を伺うことで不安を解消していただくことを第1の目標としている	知的に重い障がいの人達も選択できる多様な生活の場所づくり
2. 貴団体が活動するにあたっての課題や問題点 (1~14から選択)			3. メンバーが仕事・家事などで忙しい 4. メンバーの専門性が不足している 5. 役員のなり手がいない
3. 今後の貴団体の方向性		治らない病気もあるが、今できることをするため、難病患者のお話を伺うことが健康への近道と考え、それを活動方針としたい	・一人一人の個人の親の声を届ける ・強度行動障がいの人たちの理解や介護の困難性を見る化し、必要性を把握してもらい、双方がよりよい関係を作り、親も協力しながら「親子後」の子ども達の未来の豊かな暮らしを望む(周知と理解)
4. 現行計画の4つの基本目標に関して、次期計画で検討すべき事柄。 (現状や課題、今後必要であるサービス)	①一人一人の発達・成長を応援する 1: 発達支援システムの充実 2: 支援が必要な子どもの早期発見・対応 3: 教育・保育の充実 4: 放課後等児童対策の充実		1: 発達支援システムが学齢期だけで終わっている。学齢期～成人期、尚も年齢まで途切れる事ない取り組み 4: 放課後デイ等ではなく、本来学校教育で社会に向けての生活を訓練棟などを設けて実習していき、進路先につないでほしい
	②「輝きたい」「動きたい」意欲に応える 5: 社会参加の促進 6: 就労の促進	5: 残された身体能力を十分に活かした生産活動をしてほしい 6: 周囲とのコミュニケーションを保ちながら、治療もある事を踏まえての促進が必要	6: 養護学校時から能力や親と相談しながら実体験をつみ、生活介護、就労A・B型、障害者雇用枠を選べるだけの事業所の充実。生活介護と就労B型がごちゃ混ぜになり、本人の意図と反するところに決められているように思う
	③毎日の生活を支える 7: 相談と情報提供の充実 8: 自立支援給付等による日常生活の支援 9: 経済的負担の軽減 10: 住まいの確保 11: 保健・医療の確保	7: 相談をいつでも受け付けてほしい。情報提供の印刷物は相談のときに教えてほしい 9: 経済的負担の軽減はどうしても必要なひとがいる 10: 近隣の病気への理解があってほしい 11: 医療費補助基準に満たない難病患者の補助	7: 行政の窓口対応にバラツキがある(情報提供など) 10: 生活の場として、できれば今ある既存の施設なりホームなどで訓練できる様な支援体制 11: 医療、教育、福祉の連携
	④共生する地域をつくる 12: 人権文化の醸成と権利の擁護 13: 互れあい・交流の充実 14: コミュニケーション支援の充実 15: 移動の確保 16: 災害への備え	13: 自由に集える空間 14: コミュニケーション支援の充実 15: 移動手段の確保 16: 動けない人を基準に、レベルによる必要度を算定することが必要	
5. 他の関係団体との連携や協働について		・NPO法人滋賀県難病連絡協議会の一員である ・滋賀県身体障害者福祉協会の社会参加推進協議会の委員である	・行政、福祉関係の団体に声を届けている ・甲賀圏域の自立支援協議会に参加している
6. 連携や協働の妨げとなっていることについて		・私自身が知らないことが多いこと	・保護者もなかなか声をあげにくい、意欲的に行動する人が少ない ・目に見える障がいではないので理解が得られない ・周知のため、親が声をあげ広めている ・今後さらにさまざまな団体と意見交換を進める
7. 障がい福祉施策の展開を進めるうえで、重点的に取り組むべき課題		・高齢化社会に加えて、新型コロナウイルス感染症が重なったことが重要 ・どんな時代になっても、一人一人が元気に生き抜こうとする活力があれば良いと思う	・重度知的障がいの人や強度行動障がいがある人の確かなニーズの把握。当事者、親の声を聞いてほしい ・365日24時間「日中サービス支援型」の生活の場
8. 次期計画の策定にあたってのご意見		・子供も大人も一人の人として、伝えたいことに耳を傾けることが重要 ・動ける体作りは、安定した心も作る。そのために運動も食事も必要 ・基本に戻った人づくり	・湖南省全障がい児者、親の実態の把握 ・重度知的障がいの区分けごとに具体策を作り、だれも取りこぼさない取り組み ・在宅でもなく施設でもない小規模な多様な型の生活の場 ・地域で支える各福祉機関や事業所・行政の後押し

※回答は選択式

2. 貴団体が活動するにあたっての課題や問題点
(あてはまる番号すべてに○)

1. 新規メンバーの加入が少ない
2. メンバーに世代などの偏りがある
3. メンバーが仕事・家事などで忙しい
4. メンバーの専門性が不足している
5. 役員のなり手がいない

6. 会議や活動の場所の確保に苦勞する
7. 活動がマンネリ化している
8. 活動資金が不足している
9. 活動に必要な情報が集まらない
10. 情報発信する場や機会が乏しい

11. 障がいのニーズに合った活動ができていない
12. 他の団体交流する機会が乏しい
13. その他()
14. 特に困ったことはない

貴団体名		湖南省身体障害者更生会	湖南省障がい児者団体連絡協議会
1. 貴団体の概要	主な関係障がい種類	身体、知的、精神	
	構成員数	63人	役員15人
	構成員の平均年齢	70歳以上	
	活動概要	<ul style="list-style-type: none"> ・会員相互の親睦 ・県障害者福祉協会との連携（福祉大会の参加等） ・障がい者相談 ・湖南省障がい者スポーツ協会との連携（スポーツ大会の参加） 	<ul style="list-style-type: none"> ・各団体の相互理解と活動協力 ・「発達支援システム」をはじめとする、障がい者施策推進への積極的参画 ・「障がいのある人が地域で生活していくため」の活動支援 ・障がいのある人の「就労支援」への取り組み
2. 貴団体が活動するにあたっての課題や問題点（1～14から選択）		1. 新規メンバーの加入が少ない 2. メンバーに世代などの偏りがある 10. 情報発信する場や機会が乏しい	3. メンバーが仕事・家事などで忙しい 5. 役員のなり手がいない 8. 活動資金が不足している
3. 今後の貴団体の方向性		<ul style="list-style-type: none"> ・若年層の会員を増やす ・障がい者スポーツを通じ地域との連携 	<ul style="list-style-type: none"> ・各団体が相互理解を深めながら、協力して活動を進める場を作る（意見・要望の把握、活動へのバックアップ、勉強の場づくり等） ・「発達支援システム」をはじめ、障がい者支援施策の推進への積極的参画していく ・市行政との情報交換の場をもち、相互理解と前向きな取り組みを進める ・「障がいのある人が地域で生活していくため」の、地域社会の理解と支援を進める活動に取り組む ・障がいのある人が高齢化・後継者不足の農業を支える「農福連携」事業を推進していく
4. 現行計画の4つの基本目標に関して、次期計画で検討すべき事柄。（現状や課題、今後必要であるサービス）	①一人一人の発達・成長を応援する 1: 発達支援システムの充実 2: 支援が必要な子どもへの早期発見・対応 3: 教育・保育の充実 4: 放課後等児童対策の充実	1: 湖南省の発達支援システムの益々の充実 3: インクルーシブ教育の拡充、一部学校ではなく地域全体での交流、啓発	1: 民間のこども園・保育園・幼稚園への「発達支援システム」の導入と充実。公立と温度差のない活用と、研修等による指導者の質的向上 3: 合理的配慮の徹底。教育・保育に関わる加配者の質的向上 4: 保護者（親や家族）の役割意識の向上。家庭での躰や学校・学童保育等での出来事をフォローする力を養う指導教育
	②「輝きたい」「働きたい」意欲に応える 5: 社会参加の促進 6: 就労の促進	5: 障がい者スポーツ大会の活用の見直し（新たな参加者、若年層の取り込み） 6: 企業の法定雇用率達成企業の割合を増加、促進する施策。市役所の雇用率の開示や一般民間企業の実雇用率を向上に向けた施策	5: 行事（スポーツ・文化・講演会等）に参加しやすい移動手段の確保。休日等に行われる行事への配慮が必要 6: ショップコーチの育成と活用。仕事の実務理解（実働対応能力）と障がいの理解の両面での育成
	③毎日の生活を支える 7: 相談と情報提供の充実 8: 自立支援給付等による日常生活の支援 9: 経済的負担の軽減 10: 住まいの確保 11: 保健・医療の確保	7: 高齢化による介護支援への移行ができるよう障害者福祉サービス及び介護保険サービスの適切な運用に関する好事例の提供。障がい者の親なき後の生活や見通しの立てやすさがある。相談員や支援体制を構築	7: 当事者・家族への情報周知。情報が当事者・家族に確実に届く方法の工夫 10: グループホーム（ケアホーム）の充実。入居できる数量の確保（地域共生のためには必ず必要）。障がいをカバーできる支援体制づくり。場所を市街地にする等の地域交流のできる環境づくり。設置前の地域住民との理解促進への支援
	④共生する地域をつくる 12: 人権文化の醸成と権利の擁護 13: 心あれあい・交流の充実 14: コミュニケーション支援の充実 15: 移動の確保 16: 災害への備え	13: 障がい者の高齢化と共にできなくなる家の掃除、ゴミ出し等の生活支援、又、買い物や病院への移動支援を地域で支援できるようなシステムの構築。例：水戸学区まちづくり協議会や石部南まちづくり協議会 14: 特に聴覚障害者の人が地域での情報の取得を容易にする、交番や公共施設などへの電光掲示板の普及 16: 災害時、要配慮者支援の重要な担い手である自主防災組織に対し、研修会の開催、情報提供、技術支援	14: 手話通訳者のフルタイム勤務化による、手話通訳業務の質的向上。タイムシェア化によるサービス低下（欠損時間の発生）の解消 15: デマンド交通の充実。障がいのある人の行動の利便性向上 16: 害避難訓練の繰り返し実施。それぞれの災害種類を想定した避難の繰り返し実施。モデル地域を決めての災害避難訓練の実施。避難訓練結果からの課題抽出と対策
5. 他の関係団体との連携や協働について		<ul style="list-style-type: none"> ・湖南省ボランティア協会（行事の開催時にマジックなどのアトラクション） ・警察署に交通安全の啓発、市役所に災害に関する講義 ・県障害者福祉協会と連携し、湖南省の障がい者団体とともに障がい者週間の街頭啓発 	<ul style="list-style-type: none"> ・市への要望活動を通じての意見交換による共有化 ・組織内の各団体間の近況・課題・対策についてみんなで話し合い ・研修会等で勉強、外部団体との意見交換等を実施
6. 連携や協働の妨げとなっていることについて		<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報保護法のためか、湖南省の障害者団体がいくつあるのかも、障害者団体の代表者の氏名もわからず、連携しようにもできない 	
7. 障がい福祉施策の展開を進めるうえで、重点的に取り組むべき課題		<ul style="list-style-type: none"> ・企業への一般就労が出来るよう企業へのはたらきかけ。障がい者の特性の中から作業所等を選択できるような環境の整備 ・親なき後の生活を支える、グループホームの充実、その後の看取りのシステムの構築 ・幼児期、就学期の支援システムに対し、一定充実しているが、足りない部分についてはニーズを把握しつつ補充 ・障害者を取り巻く法整備が整いつつあるが、障がい者理解が市民に浸透していない。児童・生徒、学校関係者及び保護者への理解の促進等できることから。市民への啓発も自分が将来障がい者になりうることをアピールしてほしい 	<ul style="list-style-type: none"> ・市職員の研修の充実（質的向上） ・市民の立場を理解した（立場に立った）対応力の向上 ・行政の組織事情に左右されない市民サービス体制の確立
8. 次期計画の策定にあたってのご意見		<ul style="list-style-type: none"> ・つばきプランの認知度を上げるための、説明会を開催するなどの施策 ・県の福祉計画も考慮しながら足りないところは補い、良いところは更に伸ばす 	<ul style="list-style-type: none"> ・親（保護者）の意識を高める取り組み。「発達支援システム」等が「在るのがあたりまえ」の感覚となっている感じがあるので、利用ではなく活用（理解）する意識と、当事者と向き合う取り組みの実施 ・世代間の交流の推進。例えば親（保護者）の立場としての考え方、取り組み方等について、若い世代と年齢の高い世代との考え方の共有機会が必要。（場の設定を） ・会計年度任用職員の待遇改善で、業務意欲の向上化

※回答は選択式

1. 新規メンバーの加入が少ない	2. メンバーに世代などの偏りがある	3. メンバーが仕事・家事などで忙しい	4. メンバーの専門性が不足している	5. 役員のなり手がいない	6. 会議や活動の場所の確保に苦労する	7. 活動がマンネリ化している	8. 活動資金が不足している	9. 活動に必要な情報が集まらない	10. 情報発信する場や機会が乏しい	11. 障がい者のニーズに合った活動ができていない	12. 他の団体交流する機会が乏しい	13. その他（ ）	14. 特に困ったことはない
------------------	--------------------	---------------------	--------------------	---------------	---------------------	-----------------	----------------	-------------------	--------------------	---------------------------	--------------------	------------	----------------

貴団体名		滋賀LD等発達障害親の会トムソーヤ	湖南市手をつなぐ親の会
1. 貴団体の概要	主な関係障がい種類	知的、障がい児	身体、知的、精神
	構成員数	58人	46世帯
	構成員の平均年齢	青年、成人部41名 小中高生17名	
	活動概要	発達障がい児者のひとりひとりが、それぞれに適した教育を受け、就労し自立していくことを援助するための活動 ・定例会、合宿、LD研究会の先生方の協力を得てのおしゃべり会、勉強会 ・関係機関への働きかけ	本人、親と参同者で余暇活動、懇親および啓蒙活動
2. 貴団体が活動するにあたっての課題や問題点 (1~14から選択)		1. 新規メンバーの加入が少ない 2. メンバーに世代などの偏りがある 5. 役員のなり手がいない 6. 会議や活動の場所の確保に苦労する 10. 情報発信する場や機会が乏しい 11. 障がい者のニーズに合った活動ができていない	1. 新規メンバーの加入が少ない 2. メンバーに世代などの偏りがある 3. メンバーが仕事・家事などで忙しい 5. 役員のなり手がいない 7. 活動がマンネリ化している
3. 今後の貴団体の方向性		チャレンジクラブの充実した開催、LD研究会の先生方とのおしゃべり会、日帰り合宿の開催、テーマに沿った勉強会、特別子会社等の見学会や施設などの訪問	本人および保護者（親、兄弟）の高齢化にともなう日常生活、余暇の過ごし方の支援活動
4. 現行計画の4つの基本目標に関して、次期計画で検討すべき事柄。 (現状や課題、今後必要であるサービス)	①一人一人の発達・成長を応援する 1: 発達支援システムの充実 2: 支援が必要な子どもの早期発見・対応 3: 教育・保育の充実 4: 放課後等児童対策の充実	1: 支援室職員体制の維持と人材育成 2: 乳幼児健診時に対象児には、母子手帳と運動したこあひすポートの利用の取り組み 3: そろさん教室の指導者の安定した体制の確立と人材育成。加配保育士や小、中学校の加配の先生の確保 4: 放課後等デイサービスや学童保育との情報交換などのアプローチ	1: システムが入学時に（特別支援学校へ）提供されていない点。また、特別支援学校からもシステムへ提供がないため、システムが活用されていない
	②「輝きたい」「働きたい」意欲に応える 5: 社会参加の促進 6: 就労の促進	5: 余暇活動や障がいスポーツなどのコーディネーターの活用 6: 湖南市職員の障害者雇用促進（知的、精神）	・社会参加・就労へは、障害者への理解が少なく、また支援者、支援の方法も少なく、壁が高い
	③毎日の生活を支える 7: 相談と情報提供の充実 8: 自立支援給付等による日常生活の支援 9: 経済的負担の軽減 10: 住まいの確保 11: 保健・医療の確保	7: 広報でのお知らせと合わせて、タウンメールで各団体へのメールツールでのお知らせがあれば便利に活用できる 8: 申請が困難な者もいる事を念頭に置いての、本人のみならず関連機関への周知徹底 9: 一人暮らしの家賃の補助や関連する情報の提供 10: グループホームの充実と宿泊体験を経験するシステムの構築 11: 病院診察、診療などに必要を要した時の付き添い	・おおむね親族（親または近い兄弟）にたよるざるを得ない。いない場合は孤立してきている
	④共生する地域をつくる 12: 人権文化の醸成と権利の擁護 13: 心あれあい・交流の充実 14: コミュニケーション支援の充実 15: 移動の確保 16: 災害への備え	12: 障害の理解の啓発活動の広報記載 13: スポーツや余暇活動のサポートセンター 16: 災害避難所に入れないひとを見据えた配慮を充実して欲しい	・コロナ等もあり、各々が精いっぱいになっている中、非常に難しい（それどころではない場合もある）
5. 他の関係団体との連携や協働について	・全国LD親の会 ・JDDNET滋賀	・社協を介してボランティアのお願い等	
6. 連携や協働の妨げとなっていることについて		・コロナ禍で活動の場が狭くなっているのが実態	
7. 障がい福祉施策の展開を進めるうえで、重点的に取り組むべき課題	・新型コロナウイルスで今までとは違う生活習慣や対応に支援を受ける者も、支援者や関係機関も戸惑うことが多い。新たな差別を生まないよう人権擁護に留意する	・災害時の支援、マニュアルの作成、重要内容として避難所を活用できない人（いけない、行って周囲に迷惑がかかる、精神的にその場が不可の人等）の対応	
8. 次期計画の策定にあたってのご意見		・理解者の確保 ・高齢者増の中でのサービスの充実 ・上記のような、非常時対応の確立	

※回答は選択式

2. 貴団体が活動するにあたっての課題や問題点
(あてはまる番号すべてに○)

1. 新規メンバーの加入が少ない
2. メンバーに世代などの偏りがある
3. メンバーが仕事・家事などで忙しい
4. メンバーの専門性が不足している
5. 役員のなり手がいない

6. 会議や活動の場所の確保に苦労する
7. 活動がマンネリ化している
8. 活動資金が不足している
9. 活動に必要な情報が集まらない
10. 情報発信する場や機会が乏しい

11. 障がい者のニーズに合った活動ができていない
12. 他の団体交流する機会が乏しい
13. その他()
14. 特に困ったことはない

貴団体名		そうさん教室（親の会）	無記名
1. 貴団体の概要	主な関係障がい種類	障がい児	
	構成員数	54人	
	構成員の平均年齢	4歳	
	活動概要	<ul style="list-style-type: none"> 体作り（運動遊び、体幹をきたえるマッサージ） 手遊び（米こねんど、歌、スライム作り） 知育的なワーク 	
2. 貴団体が活動するにあたっての課題や問題点（1～14から選択）		4. メンバーの専門性が不足している 5. 役員のなり手がいない 7. 活動がマンネリ化している 12. 他の団体交流する機会が乏しい	
3. 今後の貴団体の方向性		子供ができることが増やせる場所（そうさん教室、子ども園、保育所）以外にもできてほしい	
4. 現行計画の4つの基本目標に関して、次期計画で検討すべき事柄。（現状や課題、今後必要であるサービス）	①一人一人の発達・成長を応援する 1: 発達支援システムの充実 2: 支援が必要な子どもの早期発見・対応 3: 教育・保育の充実 4: 放課後等児童対策の充実	1: そうさん教室の保育士の長期的な人材確保や保育士のスキル向上、育成を行ってほしい 3: 園の加配保育士の勤務形態の見直しを行ってほしい	<ul style="list-style-type: none"> 息子は40歳で作業所に通っているが、やはり土日休日をゆっくりすごせるところ、仲間と遊べるところが欲しい 親亡き後の施設が欲しい
	②「輝きたい」「働きたい」意欲に応える 5: 社会参加の促進 6: 就労の促進		<ul style="list-style-type: none"> ここまでは少し無理です
	③毎日の生活を支える 7: 相談と情報提供の充実 8: 自立支援給付等による日常生活の支援 9: 経済的負担の軽減 10: 住まいの確保 11: 保健・医療の確保		
	④共生する地域をつくる 12: 人権文化の醸成と権利の擁護 13: ふれあい・交流の充実 14: コミュニケーション支援の充実 15: 移動の確保 16: 災害への備え	13: 障がい児をもつ親同士の交流の場や知識を得たりできる場を充実させてほしい	
5. 他の関係団体との連携や協働について		<ul style="list-style-type: none"> そうさん教室 	
6. 連携や協働の妨げとなっていることについて			<ul style="list-style-type: none"> 横のつながりと受け入れ体制が必要
7. 障がい福祉施策の展開を進めるうえで、重点的に取り組むべき課題			<ul style="list-style-type: none"> 見てくださる方の給料 老人介護施設病院も人が足らず、その人たちの手厚いものもない
8. 次期計画の策定にあたってのご意見			<ul style="list-style-type: none"> 今一番何に力を入れるべきか。役場の立て直しへの必要も勿論わかるが、それより先にすべきこともある コロナで経済が逼迫される中、福祉計画は最優先

※回答は選択式

1. 新規メンバーの加入が少ない	6. 会議や活動の場所の確保に苦労する	11. 障がい者のニーズに合った活動ができていない
2. 貴団体が活動するにあたっての課題や問題点（あてはまる番号すべてに○）	7. 活動がマンネリ化している	12. 他の団体交流する機会が乏しい
3. メンバーが仕事・家事などで忙しい	8. 活動資金が不足している	13. その他（ ）
4. メンバーの専門性が不足している	9. 活動に必要な情報が集まらない	14. 特に困ったことはない
5. 役員のなり手がいない	10. 情報発信する場や機会が乏しい	